

プロロジス、災害時における物流施設使用について 八千代市と協定を締結

物流不動産の所有・運営・開発のリーディング・グローバル企業であるプロロジス(日本本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役会長 兼 CEO:山田 御酒)は、11月22日に千葉県八千代市(市長:服部友則)と、「災害時等における施設利用の協力に関する協定」を締結し、同日、八千代市役所内において締結式を執り行ったことを発表しました。

なお、八千代市が民間物流施設と災害時協力に関する協定を締結するのは、今回が初の事案となります。



左から、服部 友則 八千代市長、プロロジス 山田 御酒

■ 協定概要

プロロジスと八千代市は「災害時等における施設利用の協力に関する協定」を締結しました。これにより、災害発生時に八千代市の要請に応じて、プロロジスが八千代市内で運営する物流施設「プロロジスパーク八千代1」の一部を、物資集積場所及び車中泊避難場所として提供します。市内各所の避難所等への必要な物資をより迅速に配送する場所を提供するとともに、乗用車約100台分の車中泊避難者の避難場所としての利用を可能とします。また、トイレ設備及び水道設備の利用や、八千代市が発信する情報、使用施設周辺の被害状況、道路状況等の情報を提供し、車中泊避難者の支援に努めます。

■ 協定締結の背景

プロロジスパークは、効率的な荷物の保管・搬出が可能な最新鋭の物流施設です。また、施設の堅牢性、非常時にも車両がアクセスしやすいランプウェイ、BCP(事業継続計画)を考慮した設備・仕様、快適性に配慮したアメニティ設備などを備えています。

本年 10 月に竣工した「プロロジスパーク八千代 1」は良好な地盤に立地し、ハザードマップにおいても地震時の液状化や大雨による浸水が想定されないエリアにあるため、防災面・BCP においても優位性が高い物流施設です。施設には、非常用発電機の燃料オイルタンクを地下に備えており、停電時には防災センターや入居企業の事務所エリアなどの主要機能へ最大約 7 日分の電力供給を可能としています。また、井水浄化設備を設置しており、断水時にもトイレ用水を確保、事業継続を支援する施設仕様となっています。24 時間 365 日有人警備の防災センターには、緊急地震速報システムや衛星電話も備えています。

これらの施設特性を活かし、災害対策において八千代市と連携することで、地域の方々の安心・安全を支援することをめざします

さらに、プロロジスは隣接地に開発予定の「プロロジスパーク八千代 2」の計画も引き続き進めています。



「プロロジスパーク八千代 1」外観(2022 年 10 月竣工)

■ 他地域での災害支援協定

プロロジスは、これまでも京都府京田辺市、千葉県千葉市、兵庫県猪名川町、埼玉県川島町、神奈川県および神奈川県座間市、宮城県岩沼市など、プロロジスが物流施設を運営する自治体と災害支援・防災に関する協定を 10 件締結しています。今回の八千代市との「災害時等における施設利用の協力に関する協定」はプロロジスとして 11 件目の締結となります。

その他に、関西圏におけるプロロジスパークを対象に、株式会社ポプラ(本社: 広島県広島市)と「災害時の物資供給に関する協定」を締結しています。

社会インフラとして先進的物流施設の重要性が増すなかで、プロロジスは引き続き ESG に配慮し、地域の皆様に貢献できる事業活動を継続してまいります。

本プレスリリースに関するお問い合わせ先
プロロジス 広報室

報道関係者お問い合わせフォーム
https://f.msgs.jp/webapp/form/11859_dor_73/index.do